



だんぶり長者

ちようじや

むかし、^{あすきさわ} 小豆沢の ^{はたら} 働き者の ^{もの} 若者と、^{わかもの} 独鈷の ^{とっこ} 親孝行な ^{おやこうこう} 娘が、^{むすめ} いっしょに暮らしていた。ふたりともまじめに ^く 働き、^{しょうじきもの} 正直者だったが、^{せいかつ} 生活は ^{くる} 苦しかった。

ある年の正月、^{とし} 枕元に ^{しょうがつ} 大日如来が ^{まくらもと} 現れた。
「もっと川上へ行き、^{かわかみ} そこに ^い 田畑を ^{たはた} ひらきなさい。

やがて、みんなにうやまわれるようになるだろう。」
ふたりは、^{だいにちさま} 大日様のおつげどおり、さらに川上へ行き、^{かわかみ} 田畑を ^い ひらく仕事を ^い つづけた。そんなある日、一匹の ^ひ だんぶり（とんぼ）が ^い 飛んできて、^{いわ} 岩の間へ ^{あいだ} 向かって ^む いった。ついて行ってみると、^い よいかおりの ^{いすみ} する泉が ^い わき出ていた。ふたりは、^{むらびと} 村人にもこの ^{いすみ} 泉の水を ^{みず} わけて ^い やった。水を ^{みず} 飲むと ^の 病気が ^{びょうき} 治ると ^な 評判になり、^{ひょうばん} ふうりの ^{こや} 小屋のまわりは ^{おお} 大きな ^{むら} 村になった。家々の ^い 米の ^い とき ^い 水で ^い 川が ^い 白くなり、^{こめ} 米白（代）川と ^い 呼ばれる ^い ようになった。

やがて、^{わかもの} 若者は ^{むら} 村の ^{おさ} 長になり、「^{ちようじや} だんぶり長者」と ^い なった。

とっぴん ぱらりの ふう♪